

### 問 1

集合  $A, B$  写像  $f: A \rightarrow B$

集合  $\text{Im } f$  を 写像  $f$  の像といい、次のように定める。

$$\text{Im } f = \{b \in B \mid \exists a \in A \text{ s.t. } b = f(a)\} \quad (1)$$

集合  $f(C)$  を 写像  $f$  による集合  $C$  の像といい、次のように定める。

$$f(C) = \{b \in B \mid \exists c \in C \text{ s.t. } b = f(c)\} \quad (2)$$

集合  $A$  の任意の部分集合  $C$  に対し、 $f(C) \subset \text{Im } f$  を証明せよ。

.....

次を示せばよい。

$$\forall x \in f(C) \Rightarrow x \in \text{Im } f \quad (3)$$

$x \in f(C)$  より  $f(C)$  の定義から

$$\exists c \in C \text{ s.t. } x = f(c) \quad (4)$$

$C \subset A$  より 上の式は次のように  $C$  を  $A$  に書き換えることが出来る。

$$\exists c \in A \text{ s.t. } x = f(c) \quad (5)$$

この式は  $\text{Im } f$  の定義式であるので、 $x \in \text{Im } f$  である。よって、 $\forall x \in f(C) \Rightarrow x \in \text{Im } f$  であり、 $f(C) \subset \text{Im } f$  となる。

---

### 問 2

点  $\mathbf{p} = \begin{pmatrix} a \\ b \end{pmatrix} \in \mathbb{R}^2$  と正の実数  $r$  に対して開球  $B(\mathbf{p}, r)$  を次のように定義する。

$$B(\mathbf{p}, r) = \left\{ \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} \in \mathbb{R}^2 \mid (x - a)^2 + (y - b)^2 < r^2 \right\} \quad (6)$$

この開球  $B(\mathbf{p}, r)$  は 点  $\mathbf{p}$  を中心とする半径  $r$  の 2 次元開球という。

$\mathbb{R}^2$  の部分集合  $D$  が開集合であるとは次を満たすときをいう。

$$\forall \mathbf{p} \in D, \exists r > 0 \text{ s.t. } B(\mathbf{p}, r) \subset D \quad (7)$$

次の様に定義した集合  $D$  が開集合であることを示せ。

$$D = (a, b) \times (c, d) = \left\{ \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} \in \mathbb{R}^2 \mid a < x < b, c < y < d \right\} \quad (8)$$

$(a, b)$  と  $(c, d)$  は開区間であり、 $(a, b) \times (c, d)$  は直積集合

.....

開集合の定義に従い  $\forall \mathbf{p} \in D$  に対し 開球  $B$  が  $B \subset D$  を示せばよい。つまり、開球の半径が存在することを示せばよい。

$\forall \mathbf{p} = \begin{pmatrix} p_x \\ p_y \end{pmatrix} \in D$  とする。  $D$  の定義から  $\mathbf{p}$  の各成分は開区間  $(a, b), (c, d)$  の要素であるので、 $p_x \in (a, b), p_y \in (c, d)$  となる。

そこで次の 4 つの数  $p_x - a, b - p_x, p_y - c, d - p_y$  のなかで最も小さい数を  $r$  とする。

$$r = \min\{p_x - a, b - p_x, p_y - c, d - p_y\} \quad (9)$$

この  $r$  を用いると

$$(p_x - r, p_x + r) \subset (a, b), (p_y - r, p_y + r) \subset (c, d) \quad (10)$$

となる。

これにより  $B(\mathbf{p}, r) \subset D$  となる。

### 問 3

$\forall \mathbf{x}, \mathbf{y} \in \mathbb{R}^n$  と直交行列  $A$  に対して  $\langle A\mathbf{x}, A\mathbf{y} \rangle = \langle \mathbf{x}, \mathbf{y} \rangle$  であることを示せ。

.....

行列  $A$  に対し、転置行列を  ${}^tA$  と書く。

ベクトル  $\mathbf{x} \in \mathbb{R}^n$  を  $\mathbf{x} = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ \vdots \\ x_n \end{pmatrix}$  とする時、内積は  $\langle \mathbf{x}, \mathbf{y} \rangle = {}^t\mathbf{x}\mathbf{y}$  となる。(右辺は

行列の積)

直交行列とは転置行列と逆行列が同じ行列である。  $A^tA = {}^tAA = E$

.....

$$\langle A\mathbf{x}, A\mathbf{y} \rangle = {}^t(A\mathbf{x})A\mathbf{y} = {}^t\mathbf{x}{}^tAA\mathbf{y} \quad (11)$$

$$= {}^t\mathbf{x}({}^tAA)\mathbf{y} = {}^t\mathbf{x}E\mathbf{y} \quad (12)$$

$$= {}^t\mathbf{x}\mathbf{y} = \langle \mathbf{x}, \mathbf{y} \rangle \quad (13)$$